

# ☆研究推進だよ☆

R5・5・30

3号

## 5月24日(水)校内研修よ

### ①道徳の授業について

主題名「広い心で」教材名「わたしだって」

○「相互理解・寛容」の項目について

- ・相互理解ありきの寛容
- ・お互いの思いを分かり合った（相互理解）上での寛容  
どちらかが我慢するのでなく、お互いに思いを出し切って分かり合っ
- ・謙虚な心があるから、人を許すことができる。
- ・3年生から、何度も、教材を変えながら、話し合っていく項目。

○「広い心って何？」と、発問したが、なかなか難しい。他の言葉で言い換えるのが難しい。実際の行動も難しい。

どんな思いか、どんな場合に自分の心に邪が生じるか、話し合ってみるのもよい。

○タイトル「わたしだって」の後に続く言葉を考える。

例：自分も失敗することがあるから、人の失敗を責めるばかりではいけない。

○感情の高ぶりは、教師も子供も必要。

- ・一生懸命やったのに、自分が不利益を被った。それも、取返しがつかない。教材を借りて、畳みかけて、本気にさせる。
- ・「この主人公は、どういう気持ちか、誰かやってみて。」と役割演技をやってみるのもよい。
- ・けい子の気持ちを考える。

けい子がうなずくことで、何となくその場は収まった。周囲には、けい子は許したと見える。表向きはうなずいているが、だまったまま、怒っている。

「怒る」は、全員で共有されるべき。

○次の日に、修君に謝るのでなく、修君を許す。

- ・黙ったままの自分はいけなかった。その時の気持ちを話す。そして、自分も失敗した経験から、修君を許す。
- ・何でも、「ごめんね。」「いいよ。」では、いけない。  
お互いの気持ちを伝え合うことが大切。

## ②指導案について

### ○主題について

- 本時のねらいが「相手の失敗を許すことができる心情や態度を養う」とあるので、「相手の失敗を許す」としてもよかった。相手を許すことで貫く。主題名は大切なので、絞ることが必要である。

### ○指導観について

- けい子は、泣いて黙ったまま、伝えていない。
- 自分の考えや意見を相手に伝える。⇒許す。
- お姉さんとけい子を役割演技する方法もある。

### ○考え始め、考え続ける道徳

- 難しいけれど、人間が生きていくプロセスの中では、難しさがたくさんある。

「自分だったらどうする？」⇒「どうしてそこまでするの？」

- 道徳の授業は、考え始めるきっかけ

### ○けい子について

- 表面 ずっと黙ったまま

**弱さ・難しさ** 相手を許すことの難しさ

- 裏側 車の中 思い出す

**強さ** 「こんな私ではだめなんだよね。」よりよく生きたい。

- 自分の気持ちをちゃんとと言った方がいい。⇒修君を許す。
- プライドとは、自分を大事にしようとする気持ち。

けい子 モヤモヤ、相手に伝えていない。何か足りていない。

- 「けい子は、次の日、修君に何と声をかけたかな？」の場面で、役割演技をしてもよい。学習後の評価につながる。

## ②授業づくりにおいて

- 宮里先生から教材解釈シートをいただいています。主題解釈をした後、教材分析をする際に活用しましょう。

**令和5年度→研究推進部→道徳→2022年度版「主題解釈と教材解釈から発問を考えよう」**にあります。

- 「道徳科『深い学び』のための内容項目ハンドブック」を活用しましょう。「学習指導要領」の内容と、発達段階ごとのキーワードとポイントが、系統的に分かりやすくまとめてあります。

これも、主題解釈や教材分析をする際に活用しましょう。